



山宮浅間神社

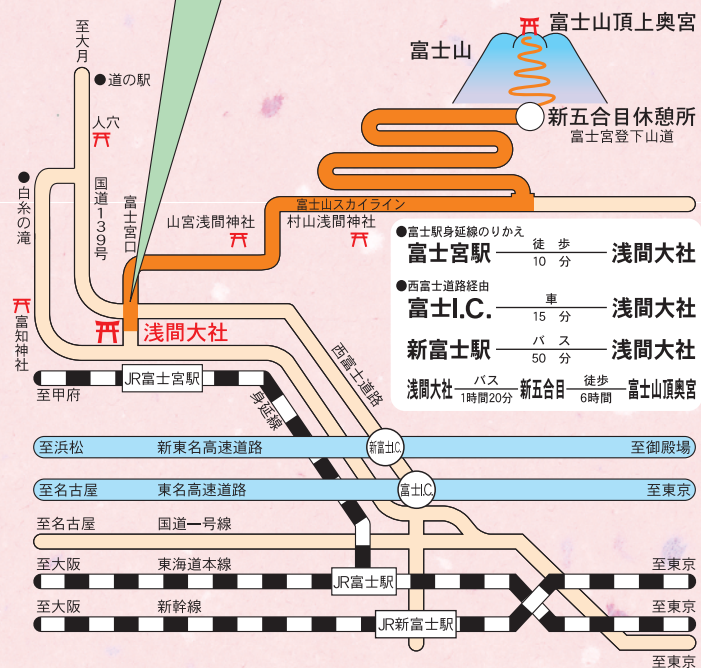
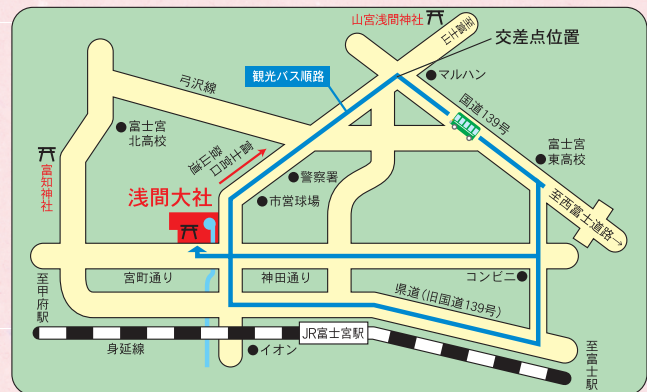
鎮座地 富士宮市山宮740
 御祭神 木花之佐久夜毘賣命
 浅間大社の社伝によれば、景行天皇40年(110)に日本武尊が浅間大神を山足の地より遷した場所とされる。富士山を直接拝む古代祭祀の形を残しており、御祭神を祀る本殿はない。元浅間大社摂社で旧村社。

富知神社

鎮座地 富士宮市朝日町12の4
 御祭神 大山津見神
 浅間大社の社伝によれば、現在浅間大社が鎮座している大宮の社地には、もともと富知神社が鎮座していたが、大同元年(806)に坂上田村麻呂が浅間大神を山宮より大宮に遷す際、社地を譲ったとされる。延喜式内社で元浅間大社摂社。



世界文化遺産 富士山本宮 浅間大社



主祭神 木花之佐久夜毘賣命
 相殿神 大山祇神・瓊々杵尊
 由緒

古来より富士山は神の鎮まる山として、多くの人々の信仰を集めてきた。社伝によれば、第7代孝霊天皇の御代に富士山が噴火し、国中が荒れ果てたため、第11代垂仁天皇3年(BC27)浅間大神を山足の地にお祀りし、富士山の山霊を鎮めた。第12代景行天皇40年(110)日本武尊は浅間大神を山宮(現、山宮浅間神社社地)に遷し、更に第51代平城天皇の大同元年(806)坂上田村麻呂が、現在の主宮の地(元、富知神社社地)に遷し、壮大な社殿を営んだ。主宮の地は富士山の湧水が豊富に流れ込む地であり、富士山の噴火を鎮める水徳の神を祀る場所に最も適していた。
 [延喜式内名神大社・駿河国一宮・旧官幣大社]



富士山本宮浅間大社

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町1-1
 TEL(0544)27-2002(代)
 FAX(0544)26-3762
 H P <http://www.fuji-hongu.or.jp/>
 郵便振替 00150-3-68051浅間大社



重要文化財『絹本着色富士曼茶羅図』

富士山頂上奥宮

富士山頂上には当社の奥宮が鎮座しており、開山期(7・8月)には30万人以上の登拝者で賑わう。頂上の噴火口(内院)は浅間大神の幽宮といわれる禁足地で、その深さが8合目に達することから8合目以上が境内地となっている。また、この火口の廻りには8つの峰があり、これを巡ることをお鉢巡りという。8峰の内、剣ヶ峰が最も高く標高3776m。



本殿

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに際し勝利を得た、徳川家康が奉賽の為に慶長9年(1604)本殿・拜殿を始め30余棟に及ぶ社殿の大造営を行った。三間社流造の二階を持つ檜皮葺の建物は、他に例を見ない浅間造と呼ばれ、国の重要文化財に指定されている。高さ13m。



湧玉池

富士山に降った大量の雨や雪は、やがて麓の方へ押し流され湧水として現われる。境内東側には、国の特別天然記念物に指定されている湧玉池がある。中世以降富士山に登る人々は、湧玉池でまず禊をし、富士登山に臨んでいた。水温は年間を通して13℃、湧水量は毎秒3.6kℓ。



流鏝馬祭 5月4・5・6日

建久4年(1193)源頼朝が富士の裾野で巻狩を行い、流鏝馬を奉納したのが始まりとされている。5月4日の前日祭では、川原祓・馬場祓・末社巡拝が行われ、5日の本祭では富士宮市無形民俗文化財に指定されている古式流鏝馬、練行、小笠原流神事流鏝馬式が奉納される。

例大祭 11月3・4・5日

新穀感謝の秋祭であり、氏子各区の屋台や山車が引き廻され、静岡県無形民俗文化財に指定されている富士宮囃子も演奏される。



- ① 一之鳥居
- ② せせらぎ広場
- ③ お宮横丁
- ④ ここずらよ
- ⑤ 二之鳥居
- ⑥ 三之鳥居
- ⑦ 鏡池
- ⑧ 桜の馬場
- ⑨ 鉾立石
- ⑩ 手水舎
- ⑪ 楼門
- ⑫ 授与所・祈祷殿
- ⑬ 拜殿
- ⑭ 本殿
- ⑮ 三之宮
- ⑯ 七之宮



- ⑰ 社務所
- ⑱ 水屋神社
- ⑲ 天神社
- ⑳ 湧玉池
- ㉑ 稲荷神社
- ㉒ 巖島神社
- ㉓ 参集所
- ㉔ 神幸橋
- ㉕ 東鳥居
- ㉖ 西鳥居
- ㉗ 忠魂碑
- ㉘ 赤心隊碑
- ㉙ 針塚
- ㉚ ふれあい広場
- ㉛ 第一駐車場
- ㉜ 第二駐車場